

# I 初任者に求められるもの

新たな「徳島教育大綱」（令和元年8月策定）は、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたものである。「徳島教育大綱」では、「徳島ならではの」教育により、大きな夢や高い目標をもって、未知の世界に果敢に挑戦する、本県の宝である「人財」の育成を目指している。

## 徳島教育大綱の基本方針

### 未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる「人財」の育成

この基本方針に掲げる「人財」を育成するために、本県は、あらゆる分野・世代の教育力を結集し、「徳島ならではの」の特色あふれる未来志向の教育施策を積極的に推進することで、徳島の未来を担うすべての「人」に対して、個人の能力・適性に応じた、質の高い学びを提供していくこととしている。

「徳島教育大綱」においては、次の五つの重点項目が示されている。

#### 重点項目Ⅰ 未知への挑戦！未来を創る教育の推進

- IoT<sup>\*</sup>、ビッグデータ<sup>\*</sup>、AI<sup>\*</sup>など革新技术の加速度的進展により、情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展する中、新たな時代を豊かに生き、未来を創る人財を育成する教育を推進します。
- 国際社会の共通の目標である、持続可能な開発目標（SDGs<sup>\*</sup>）の実現に向け、確かな行動ができる人財を育成します。

#### 重点項目Ⅱ 夢と志を実現！確かな学びを育む教育の推進

- 子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するため、新学習指導要領の着実な実施により、知・徳・体のバランスのとれた質の高い、確かな学びを育み、夢と志をもって、可能性に挑戦し、それを実現できる人財を育成します。

#### 重点項目Ⅲ 一人ひとりが輝く！多様性を育む教育の推進

- 年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての人が安心して暮らし、自立しながら支え合い、個性や能力を発揮して活躍し続けられる「ダイバーシティ<sup>\*</sup>とくしま」の実現に向けて、多様性を育む教育を推進します。

#### 重点項目Ⅳ 誰もがいきいき！生涯を通じ、安心して学ぶ教育の推進

- 新たな時代に対応した質の高い教育を実現するため、児童生徒、教職員が心身ともに健康で、安心して自分の夢を実現できる教育環境づくりを推進します。
- 人生100年時代を見据え、生涯の様々なステージに必要な能力を着実に身に付け、発揮することができるようリカレント教育<sup>\*</sup>の充実を図ります。

#### 重点項目Ⅴ 世界へ躍進！「徳島ならではの」文化・スポーツレガシーを創出する教育の推進

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やその後を見据え、トップアスリートの輩出や、本県が誇る「あわ文化4大モチーフ」に新たな価値を創造するなど、スポーツや文化芸術分野において、優れた才能や個性を見いだし、伸ばしていくための教育を推進し、「徳島ならではの」文化・スポーツレガシーを創出します。

- \* IoT……Internet of Things の略で、「モノのインターネット」と訳される。身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながることで、より豊かで便利な生活をもたらすことが期待されている。
- \* ビッグデータ……ビッグデータは文字通り「大規模なデータ」のことで、一般的なデータ量をはるかに超える大規模なデータを収集・蓄積・処理し、新たな価値を見いだすことが期待できる。教育現場では、子どもの学力データや学習履歴データなどを蓄積して多面的な分析を行うことにより、個々人に最適な指導を見いだしたり、全体の学力向上へつなげたりすることができることを期待されている。
- \* AI……Artificial Intelligence の略で、人工知能を表す。人間が持っている認識や推論などの能力をコンピュータでも可能にするための技術のこと。
- \* SDGs (エスディーゼーズ) ……Sustainable Development Goals の略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際社会共通の目標。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。
- \* ダイバーシティ……多様性を表す。性別、年齢、国籍等に関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会を指す概念のこと。
- \* リカレント教育……基礎教育を終えて社会人になったあと、改めて就労に生かすため、学び直し、また就労するというサイクルを繰り返すこと。生涯、社会で活躍し続けるため、よりよく働くために重要である。

本県教育の目指すところをしっかりと把握し、学校教育現場において、その実現に向けてまい進することが求められる。

また、平成29年9月に「とくしま教員育成指標」が策定された。これは、現在身に付けている資質・能力を把握するとともに主体的・自覚的に資質・能力の向上に向けた目標を設定し、自己研鑽を図るための具体的な指標として活用できる。（「とくしま教員育成指標」については、2～8頁参照のこと）

グローバル化、情報化、そして働き方改革が進む現在、学校教育を取り巻く諸状況は刻々と変化している。一方で、教師に対する保護者や地域社会の期待は大きく、様々な要望が寄せられる。そうした中で、児童生徒の前に立つ教師自らが、生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、常に自己を高めていく研修を積み重ねていくことが求められている。教師としての重責を十分に自覚し、初任者としてもてる力と情熱を、教育界に吹き込んでくれることを期待している。

## 1 初任者だという甘えをもたない

教師は初任者であっても、児童生徒の前に立てば、たちまち「私たちの先生」である。経験豊富な教師と同じ職責を果たさなければならない。やりがいもあるが、責任も重い。さらに、教師の仕事は、児童生徒一人一人異なる人格の形成に直接関わるがゆえに厳しく、教師としての資質・能力の向上が絶えず問われ続ける。児童生徒や保護者の思いを受け止め、その期待に応えていくためには、初任者だという甘えをもつことなく、事にあたる必要がある。

## 2 教育的愛情と情熱をもって

教育に携わる者は、児童生徒の限りない成長と発達を願い、そこに喜びを覚える教育的な愛情が必要である。教師は児童生徒に無償の愛情をもって接する。その愛情は、受容であり信頼である。

さらに、教師と児童生徒は、互いに敬愛の絆で結ばれていなくてはならない。児童生徒は愛されることにより心を開く。共に汗を流し、苦楽を共に分け合い、涙を流す教師、心の中に生涯にわたって生き続ける教師でありたいものである。敬愛の絆で結ばれているとき、児童生徒は教師の日常の言動、つまり「後ろ姿」から人間の生き方を学び、それを我がものとして身に付けていく。まさしく、「教育は人なり」である。

また、教育に対する情熱はあらゆる教育活動の基盤であり、教師としての成長を促す原動力となる。

### **3 「教える専門家」と同時に「学びの専門家」であれ**

教育とは、児童生徒一人一人の可能性を十分に伸ばし、より豊かな人間性を育てる仕事である。だから、教師には豊かな人間性と優れた識見が必要とされる。教師はその職責を果たすため、謙虚に自身の実践を振り返り、不断の教育実践と自己変革に努め、専門職にふさわしい実力をつけなければならない。指導しながら児童生徒から学び、周囲の先生方、さらには保護者や地域の方々から学び、共に成長していく喜びを実感する教師でありたい。よりよい授業を求め、創意工夫を凝らす真摯な教師の「背中」から、児童生徒は「探究する姿勢」を学び取っていく。教師は、教える専門家であると同時に、学びの専門家でなければならない。

### **4 教師である前に、常識ある社会人であれ**

教師は児童生徒や保護者から「先生、先生」と呼ばれ、自信過剰になったり、自分を絶対視したり、視野が狭くなったりしがちである。その結果、児童生徒の前で傲慢になったり、保護者に対しても社会的マナーに欠けた言動が見られたりするおそれがある。また、「これぐらい大丈夫だろう。」という軽率な判断が、その職の信用を傷つけ、又は職員全体の不名誉となるような行為につながる危険性がある。常識ある社会人として、「当たり前のことを、当たり前に行える」「社会の目線にかなう言動をとる」ことなどが求められる。一人一人が今以上にコンプライアンスの意識を高め、社会規範やルール、マナーについても率先して遵守しなければならない。これを欠いてしまっただけでは、教師ではあり得ないことを心すべきである。